

# 演習クラスを対象とした図書館利用教育 －関西学院大学図書館における取り組み－

平成20年度兵庫県大学図書館協議会研究会  
2009年2月17日 於：神戸大学附属図書館



関西学院大学図書館

魚住英子

# アウトライン

## ◆ 関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス大学 図書館の利用教育(概要)

## ◆ 新生へのオリエンテーション

✓ 大学図書館へのガイダンス

## ◆ 研究演習対象の講習会

✓ ゼミのテーマに応じた「カスタムメイド」の学術情報探索指導

## ◆ 基礎演習対象の講習会

✓ 学部・学科ごとの「レディーメイド」の文献検索指導

## ◆ 今後の展望

# 関西学院大学図書館における 利用教育の変遷

## 大学と図書館の主な動き

- 神戸三田キャンパスと総合政策学部開設(1995春)
- 新大学図書館一期開館(1995秋)
- **大学図書館グランドオープン(1997秋)**
- 理学部(現・理工学部)が神戸三田キャンパスに移転(2001秋)
- **大学図書館組織改編(2003春)**
- 人間福祉学部開設(2008春)
- 聖和キャンパスと教育学部開設(2009春)
- 国際学部開設(2010春予定)

## 西宮上ヶ原キャンパス図書館 での教育支援プログラム

基礎演習対象「新入生オリエンテーション」(旧大学図書館から継続)

演習対象「文献の探し方講習会」(1999春より本格的に実施)

館内にパソコン室を設置して強化

研究演習対象「学術情報探索講習会」

基礎演習対象「文献の探し方講習会」  
に分化(2007春)

**実施件数の増加**

# 図書館利用教育の対象

主たる対象者は学部生



- < 西宮上ヶ原キャンパス >
- 神・文・社会・法・経済・商・人間福祉の7学部
  - 学部生数は約15,100名で、  
内1年生は約3,700名(2008年度)



# 新入生への大学図書館ガイダンス



”They need to be introduced through **library instruction** . . . to the academic nature of the services and resources available in **university libraries.**”

ACRL/ALA “Guidelines for University Library Services to Undergraduate Students”

# 新入生へのアプローチ

## 【実施形態】

選択肢：

1. 学部オリエンテーションの一環
  - 原則全員参加だが、受身。
2. 個人の自由参加型
  - 関心のある学生しか来ない。
3. クラス単位で申込制
  - 受講生は半強制的に参加。

## 「基礎演習」単位で実施

- ✓ 全学部で開講し、必修
- ✓ 講義の一部で関連あり

## 【目標・レベル】

大学図書館の基本的な  
利用方法を知らせる。

図書館の利用目的  
図書館サービスの紹介  
書架や施設の案内

「図書館利用教育ガイドライン - 大  
学図書館版 - 」における

・領域1： 印象づけ

・領域2： サービス案内

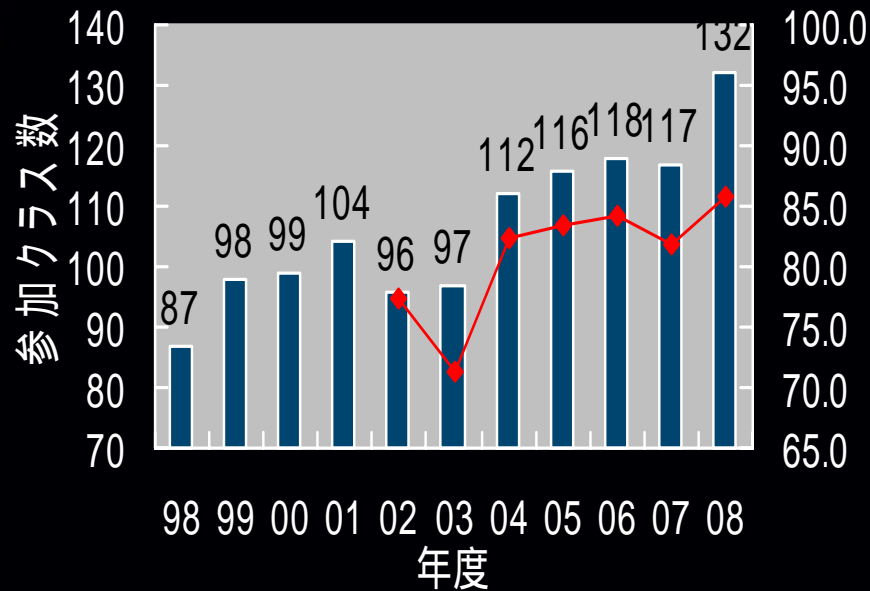
# 基礎演習対象「新入生オリエンテーション」

## 【実施手段・内容】

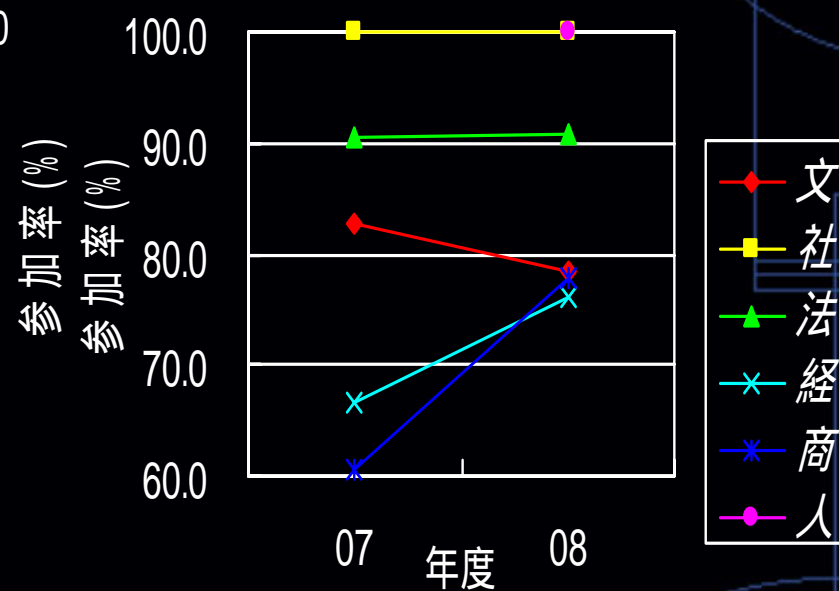
- 全演習担当教員に個別に案内を出し(HPにも掲載)、申込に応じて演習時間内に実施(4月～5月中旬)
- 申込受付は来館・メールなどで、先着順で日時決定
- 定員100名以内であれば、複数クラス同時に実施
- **図書館紹介スライド**(約12分)上映後、少人数のグループに分かれて**館内案内ツアー**(約40分)
- 配布資料は、フロアガイドとパンフレット(「最初の1冊を探し出すために」)
- 全学部同じ内容、ただし書架案内は学部・学科を重視

# 「新入生オリエンテーション」実績

## 参加クラス数の推移



## 学部別参加率



実施件数の増加 各種課題が表面化



# 「新入生オリエンテーション」の担当者

担当者数および分担回数 (2008年度春学期 全132回を複数人数で担当)

	利用サービス課	運営課
専任職員	6名 (最多13回、最少1回、平均5.2回)	13名 (最多3回、最少2回、平均2.7回)
派遣職員	8名 (最多11回、最少8回、平均9.6回)	5 (平均2.0回)
学生	12名 (最多15回、最少2回、平均6.1回)	

- 利用サービス課専任・派遣職員が統括と全体の口頭説明、館内案内ツアーの先導を担当。
- 運営課専任・派遣職員および学生は、館内案内ツアーの引率のみ。

# 課題およびその対応策

- **参加クラス数の増加に伴う実施体制の問題**
  - 上ヶ原全専任・派遣職員の動員および院生・学生の活用
  - 開始時間が異なる二部制を導入、1コマ最大200名へ
- **担当者や回数増加による内容やレベルのばらつき**
  - 図書館紹介スライドの作成・改訂
  - スライド上映時および館内案内ツアーのシナリオ作成
  - 口頭説明を減らして、配布物と補助掲示を充実化
- **参加者のモチベーション低下と館内環境への影響**
  - **館内案内ツアー廃止等の実施形態の見直し**

# 演習対象の文献探索講習会

## 【目標・レベル】

図書館の資源を利用して自分で文献を探す。

図書・論文等の探索法  
主題に応じたデータベースや参考図書等の紹介  
OPACやDBの検索技術

「図書館利用教育ガイドライン - 大学図書館版 -」における

**領域3： 情報探索法指導**  
(学科関連指導)

## 【実施手段・内容】

- 全演習担当教員に個別に案内を出し(HPにも掲載)、申込に応じて演習時間内に実施(通年)
- 申込受付は来館・メールなどで、先着順で日時決定。館内で無理な場合は、館外のパソコン室で実施。
- レファレンス担当の専任職員が主に担当。
- 実施内容や検索実習の課題は、ゼミのテーマに応じて担当者が教員の要望を入れて考える。
- 原則1人パソコン1台の環境で、検索実習を盛り込む。

# 受講生のアンケートより

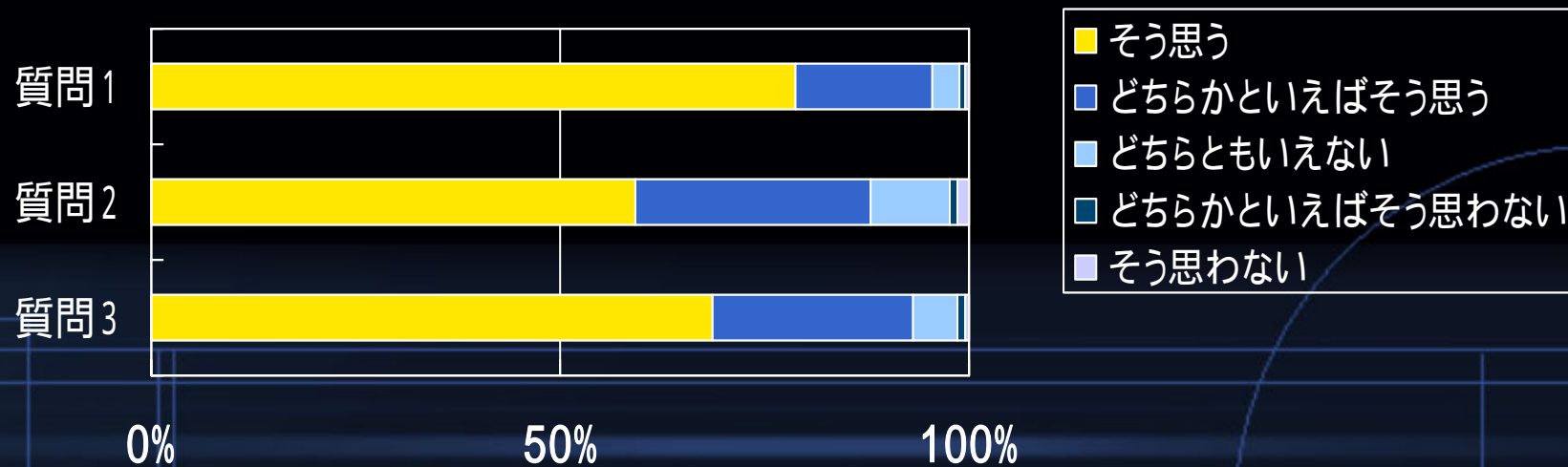
2006年度に講習会受講生に無記名のアンケートを実施

調査対象：94クラス(講習会参加101クラス中)の受講生全員(1年～院生)

有効回答数：1491人(男：752、女：739)

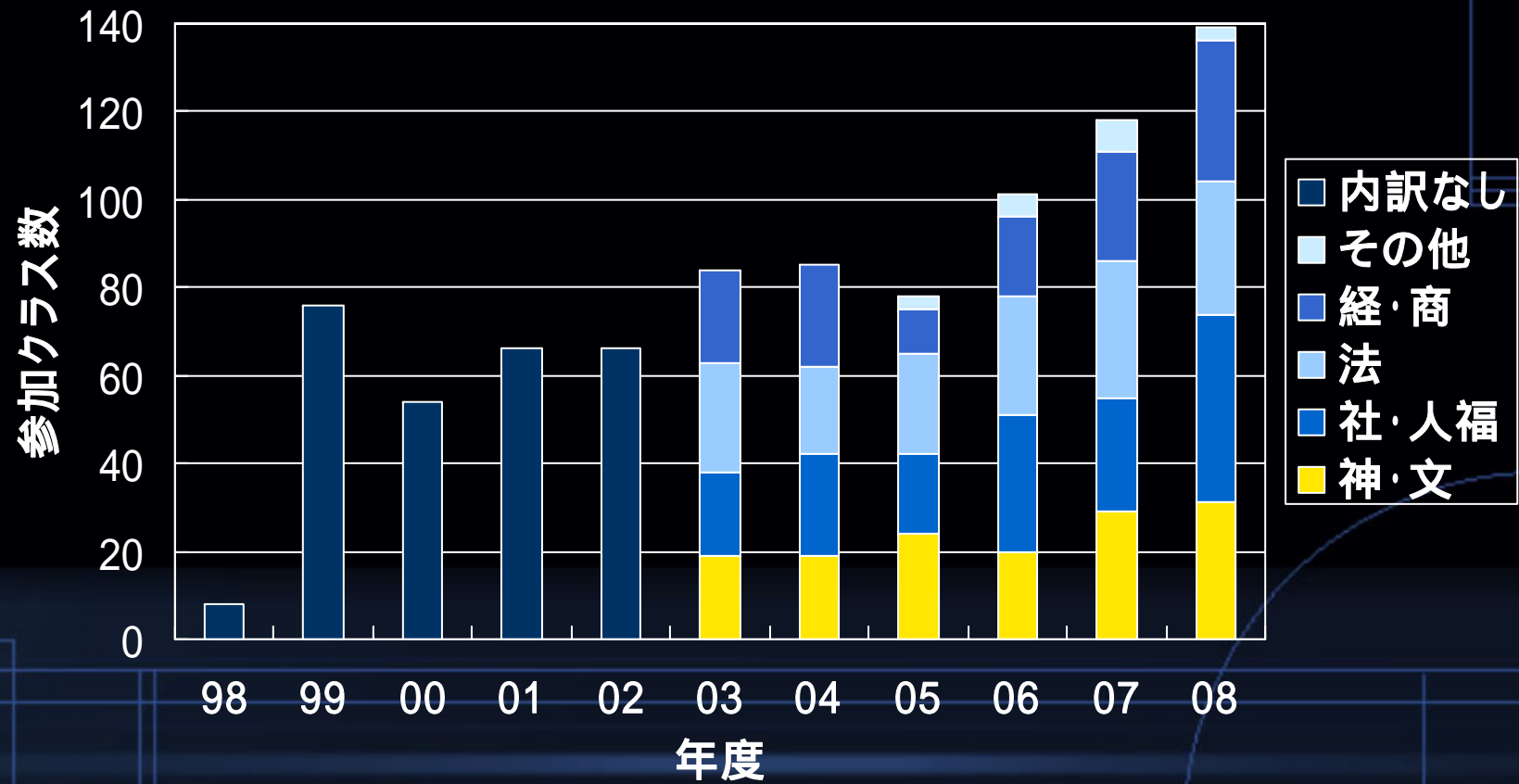
質問は、関西学院大学FD推進の「授業に関する調査」の設問をアレンジ

1. この講習会を受講して、自分にとって新しい知識や技能が得られた。
2. この講習会を受講して、図書館を今まで以上に利用したいと思うようになった。
3. 全体として、この講習会に満足した。 (以上、抜粋)



# 講習会の実績

## 演習対象講習会実施件数の推移





# 講習会の担当者

担当者数および分担回数 (2008年度通年 全139回実施)

	利用サービス課	運営課
専任職員	6名 (最多54回、最少13回、平均22.5回)	1名 (1回)
嘱託職員	1名 (3回)	

基本的に利用サービス課専任職員(レファレンス担当者)1名で1コマの講習会を担当。

人事異動により担当者が定着できない。

# 課題およびその対応策

- 専任職員の減員と実施件数の増加に伴う、担当者の負担増
  - 各担当者の得意分野や経験を生かした分担を考慮
  - 講習会テキストの作成など共通した部分の雛形づくり
- 1年生への講習会需要の高まり(アンケートでの学生からの要望・教員申込件数の増加)
  - 1年生向けの講習会を新規開催
- 情報リテラシー教育のさらなる推進へのニーズ
  - 学部全体で基礎演習のシラバスにおいて講習会受講を必須とするよう、学部に働きかける。

## 2種類の演習対象講習会 (2007年度より)

### 「学術情報探索講習会」

- 研究演習とそれに準じるクラスが対象。
- 実施内容や検索課題等はゼミのテーマに応じて担当者が考える。
- 配布物は講習会テキストなど担当者が決定。
- 実績：2007年度82件、2008年度79件

カスタムメイド

### 「文献の探し方講習会」

- 基礎演習が対象。
- 実施内容や検索課題は雛形を学部・学科に応じてアレンジして、ワークシートを作成。OPAC検索が中心。
- 配布物は講習会テキストとワークシート。
- 実績：2007年度36件、2008年度60件

レディーメイド

# 今後の展望

## 大学全体の初年次スタディスキル教育の支援 (情報リテラシー教育推進)

- ◆ 1年生全員が均等に図書館利用教育を受けられるように学部(教員)と連携
  - ・ 人間福祉学部(2008年度～)、文学部(2009年度～)で全基礎演習クラスに講習会プログラムを提供
- ◆ 担当者の研鑽・育成
- ◆ 実施形態・内容を大学の動きに対応して柔軟に変更

ありがとうございました



魚住 英子

uozumi@kwansei.ac.jp